



310 FINA TEX SX-R

Driver 森 健太郎

BEST E.T. 9.507

180SX CA18DET改 800馬力 東名2KIT T88-34D Boost2.4K ジェリコ5速エア



Driver 松本裕貴

BEST E.T. 9.877



200 Foo-BigEnd Raing

HCR32 RB26DETT改 700馬力 MoTec M8 TD06 25G×2 Boost1.7K レースグランド2AT



Driver 柴田勝彦

BEST E.T. 10.725



307 プロテクトDRAG RX-7

FC3S 13BT改654cc×2 600馬力 T51R SPL BB改 Boost1.2K レボリューション3速



Driver 菅原幸治

BEST E.T. 9.846

302 直線番長TOP1シルビア

S14 SR20DET改 650馬力 東名ピストン パワ-FC T8834D



Driver 北 真治

BEST E.T. 11.440

1041 モッチレーシングNAOKI'S 7

FD3S 13BT改654cc×2 500馬力 T51R Kai Boost1.0K OSクロス

台数充実のGTクラス 自分たちの想いを DRAGスリックに!!

GTクラスでは、圧倒的な速さを誇る平田選手が、JDDA EAST第二戦で、まさかのクラッシュ……その結果、GTクラスのラダーは、混戦となった。だが、このなかで飛び出したのはFINA TEX SX-Rの森選手。9秒中盤タイムを連発して、準決勝&決勝と危なげない勝ち方を見せてくれた。

一方過激度が加速しているPRO OPENクラスでは、M黒号の三程選手が、昨年のクラッシュから再起してエントリー。ボディはオシャカになったが、別のボディを入手して、ほとんどの移植作業を自分で行ったという。自宅にリフトを設置し、そこで仕事が終われば、休日は終日、マシンを作り直し、軽量化&細部の作り込みを行なって今回のエントリーとなった。

だが、予選走行時に発覚したのがGフォースミッションの不具合。どうもドグリンクが調子悪いのだ。3個のスプリングでセットされているのだが、それが悪戯をして

ドグを破壊してしまう。このトラブルは、第三戦にも持ち越されたが、現在改良ドグリンクを製作中とのこと。

こうしてPRO OPENはオートサービスゴウダ☆タイプMの安藤選手とザウルス☆884R☆小磯スーブラの小磯選手の一騎打ちとなった。ここで、安藤選手にクラッチの弱点が露呈。これまで3、4本走るとクラッチ内部パーツがオシャカになるような強烈半クラッチスタートを行ってきた安藤選手だが、マッチレース1回戦では小磯選手が9秒台に入れてきて負け。

そして運命の2本目は、プレステージ点灯後、ステージングまでの限界時間いっぱい